

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：25301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10612

研究課題名（和文）地域母子保健における産後うつ予備群への予防的支援のためのアセスメントツールの開発

研究課題名（英文）Development of a Nursing Assessment Tool for Preventive Support of Postpartum Depression in Community Maternal and Child Health

研究代表者

川下 菜穂子（Kawashita, Naoko）

岡山県立大学・保健福祉学部・助教

研究者番号：10733488

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、地域母子保健に従事する看護職の視点に着目した産後うつ予備群の予防的支援のためのアセスメントツールの開発を目的に、地域母子保健に従事する看護職のEPDS 9点未満のケースに対する継続支援の実態調査およびインタビューから得られた、看護職の「アセスメントの視点」の結果をもとに項目を抽出した。さらに抽出した項目について妥当性を専門家審査で検証した結果、27項目からなるアセスメントツールを作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の学術的意義は、1) 看護職が行っている産後うつ予備群の母親を定義するための看護アセスメント項目が明らかになった点、2) 産後うつ予備群への予防的支援のためのアセスメントツールに使用する項目（修正案）の妥当性が示された点である。社会的意義は、従来、継続支援対象外であった「EPDS」9点未満の産後うつ予備群を、看護職が同様の視点で査定し、予防的支援することで、産後うつ発症を防ぐことにつながると考える。また今後の産後うつ予備群へのアセスメントツールの開発の基礎的資料が得られたと考える。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study was to develop an assessment tool for preventive support of preventable postnatal depression, focusing on the perspectives of nurses engaged in community maternal and child health care. Based on the results of questionnaires and interviews, items were extracted from the "assessment viewpoints" of nurses involved in community maternal and child health care. Furthermore, the validity of the extracted items was verified through an expert review, and an assessment tool consisting of 27 items was selected.

研究分野：地域母子保健

キーワード：産後うつ病 地域母子保健 看護職のアセスメントの視点

## 1. 研究開始当初の背景

妊産婦のメンタルヘルスは国内外で課題とされており、特に産後うつ病は発症率が妊産婦の10～20%と高い。地域母子保健では産後の母子への新生児訪問等を実施しており、その際に産後うつ病のスクリーニングとして「日本語版エジンバラ産後うつ病質問票(以下、EPDS)」を実施している。「EPDS」は9点以上が産後うつ病の可能性が高いと判断されるため、9点以上の場合には継続支援ケースとして地域母子保健に従事する看護職(以下、看護職)は支援を行う。しかし9点未満の場合でも、今後産後うつ病が発症する可能性があるとして捉えた場合、市町村の看護職が継続支援を行っているのが現状である。看護職は、面接時のケースの特性や精神状態を即時に判断し、今後の支援の方向性を査定する必要があるが、9点未満の継続支援の判断基準が明らかになっていない。そのため看護職の感覚に委ねられ、この判断は看護職のキャリアやスキルによってばらつきが発生する可能性がある。そこで地域母子保健に従事する看護職が同様の視点で査定できるようなアセスメントツールの開発が必要と考えた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、地域母子保健に従事する看護職の視点に着目した産後うつ予備群の予防的支援のためのアセスメントツールの開発を行うことである。本研究で開発するアセスメントツールを活用することで、従来「EPDS」9点未満は継続支援対象外であった産後うつ予備群を看護職が同様の視点で査定でき、予防的支援することで、産後うつの発症を防ぐことにつながると思われる。

### <用語の定義>

産後うつ予備群とは、産後のEPDSが9点未満のケースのうち、今後産後うつ病を発症する可能性が高いケースとした。

## 3. 研究の方法

本研究は地域母子保健に従事する看護職への実態調査とインタビュー、それらの結果から抽出された項目の内容妥当性の検討の3段階からなる。

### 【Step1】地域母子保健に従事する看護職のEPDS 9点未満のケースに対する継続支援の実態調査

看護職がEPDSの得点が9点未満であるにも関わらず、産後継続支援を必要と判断した事例をもとに、地域で看護職が行っている産後うつ予備群の母親を定義するための看護アセスメント項目を選定した。

- ・ **研究対象者**：1653市町村の地域母子保健を担当する看護職のうち承諾が得られた157市町村の看護職545人
- ・ **方法**：医中誌-Web (Ver. 5)及びPubMedを用いて文献の検索を行い、110件が検出され、内容を精査して44件の文献を検討した。この文献の中から「看護職が産後うつ予備群に関連する観察ポイント」に焦点をあてて文脈を検討し、27項目が抽出され、さらに研究者間で検討を重ね、31項目を看護アセスメント項目(案)とした。項目案について、対象者に郵送による無記名自己記入式質問紙調査を実施し、有効回答が得られた301人(55.2%)を分析対象とした。分析には、階層的クラスター分析のウォード法を用いて分類した。
- ・ **結果**：301人のうち、252人が継続的な産後サポートを行っており、支援事例は延1,174件であった。クラスター分析の結果、21項目が6つのカテゴリーに分類され、第1分類は<健康に不安のある乳幼児を持つ>、第2分類は<思い描いていた妊娠・育児ではない>、第3分類は<家族のサポートに不満がある>、第4分類は<社会的・経済的問題がある>、第5分類は<母親に精神科の受診歴がある>、第6分類は<母親の社会性が低い>であった。

### 【Step2】産後うつ予備群に対しての地域母子保健に従事する看護職の視点

EPDS 9点未満の産後うつ予備群に対して看護職はどのような視点で予防的支援のためのアセスメントしていたのかを明らかにした。

- ・ **研究対象者**：市町村の保健センターで1年以上継続して母子保健に従事し、EPDS9点未満のケースを継続支援の経験がある看護職5～7名の3グループ(合計17名)
- ・ **方法**：半構造化されたインタビューガイドを用いたフォーカスグループインタビューを実施した。対象者の了解を得て、録音・録画し、データ化し、帰納的内容分析を行った。インタビューテーマは、( )EPDSが9点未満(日本のカットオフ点)でも、継続支援を検討す

る場合の EPDS の点数以外の訪問時のアセスメント視点 ( ) 訪問時に継続支援を決定するための最も重要なポイントであった。分析終了後、研究参加者全員に提示し、研究者の解釈した内容を確認してもらい、分析の真実性を確保した。

- ・ **結果**：看護職の産後うつ予備群に対するアセスメントの視点は、＜母親の育児行動＞＜母親の精神面＞＜母親の社会的背景＞＜母親の身体面＞＜母親の社会性＞＜子どもの健康状態＞＜家族＞＜ソーシャルサポート＞＜母親の服装や身なり＞＜環境要因＞の 10 カテゴリーで構成されていた。

### 【Step3】産後うつ予備群への予防的支援のためのアセスメントツール開発に向けた項目の内容妥当性の検討

産後うつ予備群への予防的支援のためのアセスメントツールの開発に向けた項目を精選し、内容妥当性の検討を行った。

- ・ **研究対象者**：機縁法による母子保健に従事した経験が 10 年以上かつ EPDS を使用した経験のある医療機関や保健所・保健センター等の行政機関に従事する看護職 8 人および修士以上の学位を有し、公衆衛生看護学、母性看護学の大学教員 7 人の合計 15 人
- ・ **方法**：Step1、Step2 から得られた、アセスメントツールの項目（案）について郵送法による自己記入式質問紙を用いた専門家審査を行った。Lynn<sup>1)</sup>の妥当性の測定と定量化の方法に基づき、各項目の Content Validity Index (CVI) を算出し妥当性を検討した。
- ・ **結果**：S-CVI は 0.91 であり、I-CVI が 0.78 未満であった 23 項目を除外、その他指摘があった項目の表現を修正し、＜母親の育児行動＞、＜母親の精神面＞、＜母親の社会的背景＞、＜母親の身体面＞、＜母親の社会性＞、＜家族＞、＜ソーシャルサポート＞、＜母親の服装や身なり＞に関する 27 項目のアセスメントツールを作成した。

## 4. 研究成果

本研究は、3 つの Step により、27 項目からなるアセスメントツールを作成した。アセスメントツールを使用することで、様々な経験をもつ看護職が同様の視点で産後うつ予備群を査定することが可能となると考える。今後は、今回作成したアセスメントツールに関して信頼性を検証し、地域母子保健分野での実装を目指していくことが必要である。

### <引用文献>

1. Lynn MR, Determination and Quantification of Content Validity, Nursing research, 35(6): 382-385, 1986.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Naoko Kawashita, Misa Shiomi, Rie Ikeda, Yuka Okazaki, Shinobu Nomachi, Hisako Izumi.
2. 発表標題 Risk assessment for postpartum depression with an Edinburgh Postnatal Depression Scale score <9.
3. 学会等名 24th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川下菜穂子、塩見美抄、池田理恵、岡崎愉加、和泉比佐子
2. 発表標題 産後うつ病の母親への退院後の支援のための視点－文献の内容分析から－
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naoko Kawashita, Misa Shiomi, Rie Ikeda, Yuka Okazaki, Shinobu Nomachi,
2. 発表標題 A Literature Review of Postpartum Depression Screening
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naoko Kawashita, Misa Shiomi, Rie Ikeda, Yuka Okazaki, Shinobu Nomachi, Hisako Izumi
2. 発表標題 Viewpoints on Postpartum Depression Risk Assessment by Japanese Community Health Nurses'
3. 学会等名 The International Collaboration for Community Health Nursing Research (ICCHNR) Conference of 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	和泉 比佐子 (Izumi Hisako) (60295368)	神戸大学・保健学研究科・教授  (14501)	
研究分担者	岡崎 愉加 (Okazaki Yuka) (50224001)	岡山県立大学・保健福祉学部・准教授  (25301)	
研究分担者	赤松 恵美 (Akamatsu Megumi) (30351943)	川崎医療福祉大学・医療福祉学部・准教授  (35309)	削除：2019年3月18日
研究分担者	能町 しのぶ (Nomachi Shinobu) (40570487)	兵庫県立大学・看護学部・講師  (24506)	
研究分担者	池田 理恵 (Ikeda Rie) (70249051)	岡山県立大学・保健福祉学部・准教授  (25301)	追加：2019年3月18日

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------